

# 御廟二丁目町内会 活動紹介

当町内会は14の隣組三百数十名で構成されていて、0歳から三十歳で約八十数名、四十歳から六十歳で百三十数名、七十歳から九十歳で約九十名と高齢化が進行した町内になりつつあります。

そのような中で活動は、①自主防災の活性化、②町内挙げてのボランティア活動、③育成部中心に年間行事が計画され実施しております。それでは、項目別の活動状況を紹介いたします。

## 『自主防災活動』

自主防災組織結成年は、平成21年4月1日で、今年の4月で17年になります。

主な活動として、全戸数対象のアンケートによる意識調査を令和5年度に実施しました。

目的は、当町内の戸数の災害対策に関する意識と、対策の実施状況並びに対策が進まない理由について調査し、今後の災害被害を軽減するための自主防災組織推進の参考とする。

## ◆見えてきた課題と今後の対策

① 家庭内の「安否確認」「避難場所」の取り決めで、災害時スマホが使えると限りません。「万が一の場合ここに集まる」という場所を決めておくことは大事です。

② 寝室にタンスや本棚、机やテレビ等何も置かないのが望ましい。置く場合転倒防止を行う。けが防止のため。

③ 設問で「家の中で安全な場所」が一番多いですが、あなたの家では「安全な場所」は思い浮かびますか？四隅に柱がある狭い場所（トイレや脱衣所）

④ 「防災のイベントが行われていることは知らなかった」と答えた方が55%を占めている。今後の防災活動に生かしたい。

⑤ 自助とは、自分や家族で災害に備え取り込むこと。共助とは、災害の時、近所の方々、地域の方々と助け合うこと。公助とは市・県・国が災害発生に備え防災に対する啓発・準備・整備を進めること

⑥ 町内会でできること、備える物の優先順を上げること。

## ◆今後の目標

過去の水害、長井盆地西力断層帯、山々に囲まれた盆地の救助体制を考えていきたい。

## 『町内挙げてのボランティア活動』

ふるさとの川愛護活動  
ふるさとの川愛護活動支援事業として新蛭川左岸延長560メートル



の河川遊歩道を6月、7月、10月の年3回実施しています。

令和元年コロナ禍の3

年間は、作業ができず、大雨により泥が大量に堆積し人力による土砂撤去、河川清掃は不可能な状況になっています。

置賜総合支庁建設部河川砂防課に土砂撤去の申請を行っているところです。

◆ふれあいの道路愛護事業  
万世橋成島線の植樹の維持管理、マリーゴールドの植栽から撤去まで行っています。



## 『青年部活動』

青年部で実施している年間行事に町内の芋煮会が子供からお年寄りの参加で行われています。芋煮会の会場に於いて防災訓練の一環として炊き出し訓練も行っています。

例えば、震災とかで断水した場合を想定し黄色い色粉を混ぜた水を作り、泥水に見立て炊き出しご飯作りを実施しました。



# 開館四十周年を祝う

西部コミュニティセンター・克雪プラザは昨年11月2日開館40周年記念式典・祝賀会を挙行了しました。実行委員の皆様には記念行事の準備と運営に一方ならぬご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。また、西部地区の皆様にも絶大なご支援をいただき、様々な記念行事を成功裡に終了することができましたことに深く感謝申し上げます。

記念行事は6月のスポーツフェスティバルに始まり、自主防災講演会、山形県警察音楽隊演奏会、劇団「まみおめも」公演、ロビー展、記念式典・講演・祝賀会、文化祭、記念誌発行、地域づくり講演会、合同祝賀会、雪まつり・花火打ち上げと多彩を極め、皆様から存分に祝っていただきました。

今後とも、西部コミュニティセンター・克雪プラザは西部地区の皆様のご活動拠点として、その重要性を高めていくことが期待されています。昨今自然災害が増える中、今後は特に地区内の自主防災組織率向上と防災研修会の開催や、地域づくりに向けた創意工夫と実践活動がますます重要になるでしょう。

結びに、西部地区の皆様のご健康とご活躍をお祈りいたしますとともに、今後とも西部コミュニティセンター・克雪プラザに一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

西部コミュニティセンター管理運営委員会  
委員長 手塚宮雄  
館長・職員一同



発行；西部コミュニティセンター Tel.22-5758 E-mail:seibu-co@ms5.omn.ne.jp

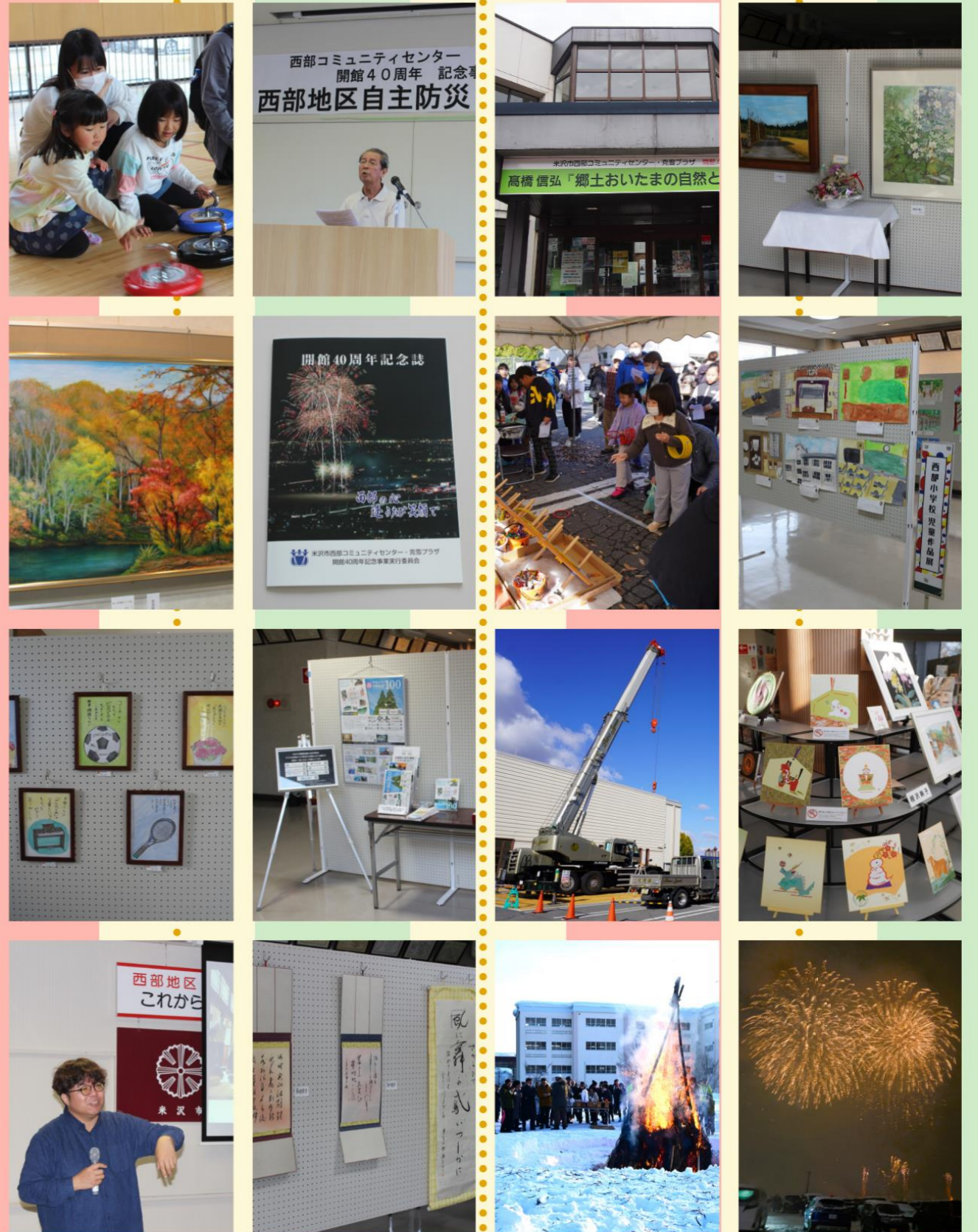
## 【目次】

- 1面... 管理運営委員長あいさつ
- 2面... 開館40周年記念事業
- 3面... 館山自治会紹介
- 4面... 御廟二丁目町内会紹介



# 西部コミュニティセンター・克雪プラザ

## 開館40周年記念



### 館山自治会のあゆみ 昔をふりかえって

館山地区の  
人口と世帯数  
356世帯  
1,076人

館山地区は、山、川、公園そして農地もあって四季折々に風情のある自然環境に恵まれた地域です。

歴史的に顧みると、国の指定遺跡となった「一の坂遺跡」をはじめ伊達政宗の父が館山に築城したと言われる国の史跡に指定された「館山城跡」等があり地区全体に遺跡が分布しています。

明治時代には、今の三中の地に米沢製糸工場が操業しており、農業では小柳地区に栽培されていた葉タバコが有名で、米沢の味「A・B・C」のAアップルとして名産の一つとなっていた「館山リンゴ」の栽培が行われました。また、明治20年代の後半まで、西部小学校の前身である「館山小学校」がありました。

大正時代に入ると、今の「ティジン」の前身である帝国人絹が操業を開始し、昭和の初期にかけては、館山発電所や浄水場が建設されるなど活況を呈し、今で言う都市基盤整備の発祥の地ではなかったかと思えます。



館山会館は昭和7年、館山青年会の手で建設されたが、住民自治会活動による集会所が建設されたのは稀であり、自治活動の拠点としてばかりでなく、各種団体の研修会、講習会、生活用品販売、選挙の投票所として利用されてきました。当時、館山には10町があり現在のようにならば、館山には10町がありそれぞれに防犯、冠婚葬祭などの互助を行っており、昭和33年9月にこれまであった「館山振興会」を解散し自治会を発足させ外灯設置や維持管理、館山会館の維持管理、敬老事業等の活動を継続するとともに、館山公園を桜の名所にしようとして苗木を植栽し公園の清掃奉仕活動は今も引き継がれています。



三中グラウンドを会場とし、「いも煮運動会」や「盆踊り」の復活、ソフトボール大会等行事主体の活動が旺盛であったが、年を追うごとに参加者が減り休止を余儀なくされた行事もありました。館山会館も寄る年波にはかかず、年々老朽化



が進み補修費も高むことから改築の話が機会あるごとに話題となっていました。旧館山会館は昭和7年当時11名の共有名義で登記されておりそのままでは改築できないため、館山自治会を米沢市で第一号の法人格を持つ「地縁団体」としての認可を得ました。地縁団体の認可後、会館改築専門委員会を設け、紆余曲折の経緯はありましたが「宝くじ還付補助金」と館山全戸からの拠出金、寄付金等をいただき平成8年に完成しました。



館山地区も、大峠道路や都市計画道路六部館山線の開通などがあり、大きな変貌を遂げました。地区の高齢化も進み、お年寄りや一人暮らしなど老人世帯が多くなっています。互助の精神を培い、明るく住みよい地域づくりをしていくことが、今後の課題ではないかと思われま